

女性医師の窓

金沢大学附属病院女性医師メンター主催
「女性医師の生き方セミナー」開催までの経緯と成果金沢大学附属病院血液内科
森下 英理子

石川県より女性医師メンターを仰せつかったのが2年前の8月、さらにコーディネーターの委嘱は昨年8月のことでした。「女性医師メンター」という言葉自体初めて耳にしたものであり、さらには大学附属病院勤務の女医の人事・相談事諸々は医局長が一手に対応しているので、大学病院における女医メンターの必要性が私にはいまひとつ理解できませんでした。とは言え、周りの若い女医さん達に目を向けると生き生きと楽しそうに働いているとはお世辞でも言えず、何か彼女達の役に立つような活動をしたいとの思いに駆られました。

彼女達と話す機会を増やしていくと、その不安の一つに「自分の将来像をイメージできない」というものが根底にあることに気付きました。そこで思いついたのが、中堅クラス以上の身近な先輩女医さん達に仕事と育児をどのように切り抜けてきたかを語ってもらい、先輩後輩入り混じってざっくばらんに交流できる会を開いてみよう、というものでした。開催に当たり課題は3つ—①講演者の選択、②託児所の準備、③開催のための資金調達。資金については、附属病院総務課長村田さんの奮闘により病院側から資金援助を受けられるようになり、その資金で保育士2名も確保できました。会の成功を左右する講演者の選択についてはかなり頭を悩ませましたが、旧第三内科の後輩女医さん達の要望を取り入れ、現在外科系・内科系の臨床現場の一線で活躍されている先生、行政に入られた先生から、一人ずつお願いしようということになりました。私が保育園や外勤先の病院で知り合った先生方に強引に(?)依頼し、最終的には金沢市福祉健康局こども福祉課長(小児科医)越田理恵先生、金沢赤十字病院眼科部長内山佳代先生、金沢市立病院外科医長大竹由美子先生、石川県立中央病院神経内科診療部医長松本泰子先生の4名の方々が、快くご講演をお引き受けくださいました。

こうして昨年11月14日、附属病院宝ホールにて、金沢大学附属病院女性医師メンター主催による「女性医師の生き方セミナー」が開催されました(案内ポスター参照)。参加者はほとんどが勤務医でしたが、女医学生9名、研修医4名を含む総勢44名の会となりました。松本先生の、3人のお子様の迎えの際に1人保育園に忘れてきたことを帰宅するまで気付かなかったというお話に会場は思わず大爆笑、また仕事のペースは一定ではなく、夫や子供、親の状況により大きく左右されるがその時に自分ができる最大限のことをやってきたとの話に皆が深い共感を得ました。大竹先生の、育児中仕事のペースがダウンしてもある時期から完全復帰することは可能で、そのブランクはほとんど問題にはならないとのメッセージに、若者は勇気をもらいました。そして、内山先生の現在も持ち続けている臨床や研究への熱い情熱に圧倒され、女医はある程度戦略を練ってから自分の仕事をアピールしないと十分な評価を得ることができないという suggestion に、会場は思わず聞き入りました。最後に越田先生から、学位取得は自分一人で一つのものを作りあげるという作業でありその達成感は大きな自信につながるので積極的にチャレンジしてほしい、そしてママ友は大切にしようとの提案に研修医や学生は啓発され、ママ友の一人である私は心の中で拍手喝采いたしました。

その後は、4人の講師の先生を中心に4つのグループに分かれグループディスカッションを行いました。学生や研修医、若い勤務医の方々から、次々と講師やメンターの先生方に質問が飛び、どのグループも活発なディスカッションで大いに盛り上がり、終了時間を大幅にオーバーするという展開となりました。

最後に参加者からアンケートを回収しましたところ、「たくさんの刺激を受けた」(76%)「刺激を受けた」(21%)とほぼ全員の方々から手ごたえのある評価を頂きました。女医学生からは「誰かのように」というのではなく自分らしい人生を葛藤しながら進んでいこうという前向きな気持ちになれた、研修医からは目標を再認識して今後の家庭人としての生活とキャリアプランニングを考えるきっかけとなった、勤務医からは育児と仕事の狭間で悩んで当たり前なんだと思うと気が楽になった、などなど多くの率直な意見が寄せられ、多少なりとも今後役に立つようなメッセージを参加者に届けることができたのではないかと実感いたしました。

「とりあえず第一回目を開いてみよう」が合言葉で、病院事務の村田さんと四苦八苦しながら開催にこぎつけた「女性医師の生き方セミナー」でしたが、まずは好調な出足となりました。すでに、今年の第2回目の開催計画が控えております。今回は「女医を妻にした男性医師の奮闘」を一つのテーマに入れようと考えておりますが、県医師会男性会員の諸先生方でご自分の体験談を是非語られたいとご希望の方は、私のところまでご一報下さい!

女性医師職場支援の取り組みは、最終的には男女合わせた医師全体の職場環境の改善につながると思われまます。今後も大学附属病院のメンターならびにコーディネーターとして活動できることを模索し続け、少しでもお役に立てればと願っております。

女性医師の 生き方セミナー

第1部 講演会

結婚、出産、子育てを経て現在もご活躍されている先輩女医の方々の、
今日までの道のりやその歩み方をお聞きになってみませんか。

講師

金沢市福祉健康局こども福祉課長(小児科医)	越田 理恵 先生
金沢赤十字病院 眼科部長	内山 佳代 先生
金沢市立病院 外科医長	大竹 由美子 先生
石川県立中央病院 神経内科診療部医長	松本 泰子 先生

第2部 パネルディスカッション

先輩女医の方々や附属病院女性医師メンターに何でも聞いてみよう。

参加対象：医学類(医学部)学生、研修医、医師、その他金沢大学教職員

日時：平成22年11月14日(日)
13:30~15:00

場所：附属病院外来診療棟4階
宝ホール

主催：金沢大学附属病院女性医師メンター
森下英理子(血液内科)
東馬智子(小児科)
八木清香(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
小室明子(麻酔科蘇生科)

共催：金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー

事前にお申し込み願います。

託児所も用意しております。

会場、託児所の準備のため、ご参加いただける場合は、
10月28日(木)までにお申し込み願います。
なお、託児所をご利用の場合は、お子様の名前、年齢、
アレルギーの有無をお知らせ願います。(託児所のご利用
は、生後6カ月以上のお子様に限ります。また、スペース
の都合により先着15人までとさせていただきます。)

問合せ・申込み先：
附属病院総務課(担当：村田)
電話265-2092 FAX 234-4320
E-mail yasushi@adm.kanazawa-u.ac.jp